

国史跡 大室古墳群 古墳見学会 資料

平成 25 年 11 月 9 日 (土)
長野市教育委員会文化財課
大室古墳群保存会

大室古墳群について

立地と特徴

松代町大室に所在する大室古墳群は、5～7世紀代につくられた約500基の古墳からなる東日本有数の規模をもつ古墳群です。古墳の分布状態とその地形条件などから大小五つの支群に大別されており、うち発掘調査によって内容が明らかになりつつある大室谷支群の一部が平成9年に国史跡に指定されました。

大室古墳群は、全国的に珍しい「積石塚^{つみいしづか}」や「合掌形石室^{がっしょうがたせきしつ}」が集中しており、朝鮮半島からの渡来人^{とらいじん}が古墳の築造に関わった可能性が考えられています。また、発掘調査では馬に関連した遺物が出土していることから、平安時代の書物に記された「大室牧」との関係が考えられています。



大室古墳群の広がり



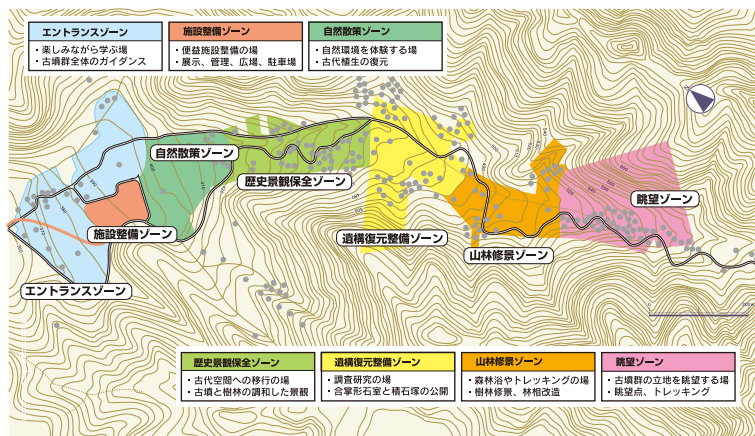
積石墳丘に合掌形石室が残る168号墳



馬形土製品 (168号墳出土)

史跡整備事業

大室古墳群の史跡指定範囲は16.3haと広大なため、全体を七つのゾーンに区分して順次整備を進めていく計画です。現在は、第1期としてエントランスゾーンと施設整備ゾーンの整備を進めており、来年度からは第2期の遺構復元ゾーンの整備に着手する予定です。



史跡大室古墳群のゾーニング

鳶岩単位支群の整備

とびいわたんいしくん 鳶岩単位支群

エントランスゾーンから北方を望むと、鳶岩と呼ばれる切り立った岩肌があります。このふもとに分布する古墳は大室谷支群鳶岩単位支群に区分され、31・32・33号墳が史跡内に含まれます。一帯は「古墳の経年変化」をテーマに、近代の畑地化とともに石垣内に取り込まれ、形を変えながら現代に受け継がれた古墳の姿を整備しました。



整備前の31号墳



整備前の33号墳

31号墳

横穴式石室を埋葬施設とする直径約14mの円墳です。石垣に取り込まれるように石室が開口していましたが、上部には屋根が架けられ、墳丘内には沈殿槽がつくられるなど、農作業にともなう後世の改変を大きく受けていました。発掘調査では、大室古墳群では珍しい盛土墳であることが明らかになりました。

整備では、屋根や沈殿槽を撤去し、周辺環境になじむよう新たに石垣をつくりました



確認された盛土墳丘



沈殿槽跡地につくられた石垣

32号墳

横穴式石室を埋葬施設とする直径約10mの円墳です。開墾により大きく改変を受けていますが、墳丘はわずに残っていました。石室は、露出した壁面に開いた盗掘坑から内部をのぞくことができますが、天井近くまで石で埋まり、中に入ることはできません。

今回の整備では、古墳の範囲の表示のみを行っています。

33号墳

横穴式石室を埋葬施設とする直径約10mの円墳で、石室の東半分が完全に露出していました。発掘調査では、入口部分につくられていた石垣を解体し、埋もれていた石室壁面を検出しました。

石室にはゆがみや亀裂があったため、樹脂や特殊な土ですき間を埋めるとともに、外側からは盛土で補強しました。



石室修復の様子

241号墳の発掘

合掌形石室の発見

平成21年度の発掘調査で、それまで墓地として使われていた241号墳の墳頂から合掌形石室が発見されました。合掌形石室が発掘調査によって見つかったのは大室古墳群では初めてのことです。

見つかった石室は、屋根型の天井石こそ失われていたものの、板石を組み合わせた石棺状の下部構造や三角形の立石など、大室古墳群で見られる合掌形石室の特徴を備えています。

またその一方で、底に敷き詰められた川原石や、ベンガラが天井石から垂れ落ちた痕跡、閉塞（石室の入口をふさぐこと）状況など、これまでの合掌形石室では知られてこなかった新たな情報をもたらしました。



整備前の241号墳



241号墳の合掌形石室（左：南から、右：北から）

合掌形石室の出土品

石室内からは、けんびしがたぎょうよう 剣菱形杏葉・かんじょううず 環状雲珠・くらかなぐ 鞍金具・つじかなぐ 辻金具・かこ 鉸具などの馬具、ぼぐ 片刃鏃・かたばぞく 反刃鏃などの鉄ぞく 鏃（鉄製の矢じり）、ガラス玉などが出土しました。剣菱形杏葉などの飾馬具は大室古墳群の合掌形石室では初めての出土となります。また、反刃鏃は珍しい鉄鏃形式で、長野県内では初めての出土です。



剣菱形杏葉（左）と反刃鏃（右）

発掘調査でわかったこと

出土品から、241号墳は古墳時代後期前半（六世紀初頭）に築造された、大室古墳群で最も新しい合掌形石室の古墳であることがわかりました。

剣菱形杏葉や反刃鏃は地域の王墓である前方後円墳から出土することが多く、直径14m程度のごく小さな古墳である241号墳からこうした優品が出土していることは、積石塚古墳や合掌形石室の性格を考えるうえで、重要な手がかりとなります。

史跡大室古墳群見学マップ

～ムササゴ～周遊路編～

所要時間：約1時間（大室古墳館との往復を含む）

- 横石塚
- 合掌形石室・箱形石室
- 土石混合同墳
- 竪穴式石室
- 盛土墳
- 横穴式石室
- ? 不明

墳丘・埋葬施設の種別は、『長野・大室古墳群 - 分布調査報告書 -』（長野市教育委員会 1981）を一部修正したものです。今後の調査により変更される可能性がありますのでご了承ください。

186号墳

造られた当時の姿をよく留めている古墳です。横穴式石室の前面から、土器とともに馬の頭骨が出土しており、被葬者と馬との関わりを示しています。

187号墳

古墳群で多く見られる横穴式石室の中でも、古い段階に造られたと考えられる古墳です。側壁の一番下の石材が縦方向に据えられているのが特徴的です。

189号墳

確実に箱形石室と判断できる数少ない古墳で、石室の上には水平に設置された天井石が残されています。墳丘の一部は林道によって削平されています。

168号墳

合掌形石室がよく残されており、大室古墳群を代表する古墳の一つとして知られています。墳丘上から馬形土製品や埴輪・土器などが出土しています。

165号墳

T字形に2つの合掌形石室が配置されている珍しい古墳です。東側の石室には屋根型の天井石は残されていますが、奥壁の形状から合掌形石室と判断できます。

176号墳

とても規模の大きな横石塚で、崩れかかった合掌形石室が上部に残されています。石室の位置から考えると、これとは別の埋葬施設が存在する可能性があります。

195号墳

大室古墳群では類例の少ない竪穴式石室が2基ある珍しい古墳です。失われている天井石は、側壁の一番上にある大きな平石上に設置されていたと考えられます。

186号墳

造られた当時の姿をよく留めている古墳です。横穴式石室の前面から、土器とともに馬の頭骨が出土しており、被葬者と馬との関わりを示しています。

187号墳

古墳群で多く見られる横穴式石室の中でも、古い段階に造られたと考えられる古墳です。側壁の一番下の石材が縦方向に据えられているのが特徴的です。

189号墳

確実に箱形石室と判断できる数少ない古墳で、石室の上には水平に設置された天井石が残されています。墳丘の一部は林道によって削平されています。



周遊路入口へは徒歩で移動してください。一部は山林ですので、安全には十分注意して見学してください。



周遊路入口

大室古墳館へ